

1 県内一斉の取組

①月1回の「定時退校日」を全校で設定

○学校行事等を考慮し、なるべく定時に 帰りやすい日を選んで設定	203校(59.8%)
○毎月決められた日を選んで設定 (例 第○週△曜日)	126校(37.2%)



○ほぼ全員が定時に退校	21.5%	} 5割強の学校において、 8割以上の教職員が 定時に帰っている
○8割以上の教職員が定時に退校	34.5%	
▲定時に退校する教職員は半数未満	20.9%	

②最終退校時刻の目標を全校で設定

○ ~19時に設定の学校	75校(22.1%)
○19時~20時に設定の学校	235校(69.3%)
○20時~ に設定の学校	24校(7.1%)



○特別な用務がない限り、ほぼ全員が退校	30.1%
△多くの教職員は退校するが、 一部の固定した教職員が残っている	68.7%

③夏季休業中のリフレッシュウィークや学校閉庁日の設定

○7日間の学校閉庁日	3市町
○4日間の学校閉庁日	5市町
○3日間の学校閉庁日	11市町及び全ての県立学校



ほとんどの学校において、教職員の心身のリフレッシュなどに効果があったと感じている

④部活動休養日は原則として平日1日と土曜又は日曜(年間で52日以上)に設定

4月~9月で土日に26日以上休養日を設けた部

○中学校	運動部	63.7%	文化部	91.7%
○全日制高校	運動部	55.3%	文化部	97.2%



実施できなかった部は、10月~3月に、年間で52日以上となるように休養日を設定

⑤教職員の多忙な現状や改善に向けた取組について、保護者や地域の方々に	⇒	理解が進んでいる	25.7%
		少しずつ理解が進んでいる	67.0%

2 教育委員会における学校・教職員に対する取組

①調査・照会を整理・統合するとともに、可能な限り報告様式の簡略化、電子化を図る。

- 県教委から発出し、学校が回答するものについて
⇒ 前年度比(4月~9月) 38件の削減(平成29年度364件⇒平成30年度326件)、88件を簡略化・電子化(約2割)
- 市町教委も同様に、回数削減、複数の調査の統合、簡略化・電子化などを進めている。

②会議や研修会の整理・縮減を図るとともに、小規模校の教職員に配慮した参加体制の工夫等を行う。

- 県教員総合研修センターにおける集合型研修の縮減 (H28 → H29) ポリウムを15%削減(32,700人日 → 28,000人日)
(H29 → H30) 初任者研修、中堅教諭等資質向上研修をそれぞれ3日程度削減 など
⇒ 校内研修を充実することにより、集合型研修の整理・重点化を図り、教職員の負担を軽減
- 県教員総合研修センターでの研修の一部をライブ配信化
- 市町教委も同様に、会議や研修を整理・縮減したり、参加人数の縮減などを進めている。

③研究指定校の指定校数を縮減するとともに、事前案内、成果発表会及び発表資料の簡素化を図る。

- 県教委の研究指定校数を縮減(H29: 158校 → H30: 131校)
⇒ 研究が進んだ事業については終了し、重点化・焦点化を図る。
指定校数を拡充 → 「英語教育強化拠点地域事業」など 事業を終了 → 「能動的学習推進事業」「いしかわ探究スキル育成事業」など
- 市町教委も同様に、重点化・焦点化を進め、研究指定校数を縮減するとともに、作成資料などの簡素化を進めている。

④スクール・サポート・スタッフや部活動指導員など外部人材をモデル配置

- スクール・サポート・スタッフ ⇒ 大規模中学校を中心に30名を配置(元教職員・公務員を中心に配置)
- 部活動指導員 ⇒ 中学校44名、高等学校3名配置(指導経験のある教員OB、指導資格のある外部指導者)

3 学校の工夫による独自の取組のうち特に効果のあった事例

- ・校内WEB掲示板を作り、毎日の業務連絡、生徒の欠席連絡、保健室利用者等がパソコンでわかるようにした。
- ・紙の文書で保護者に配布していた学年別やPTAのお知らせ等を、電子メールにより一斉に連絡できるようにした。
- ・職員会議でタブレット端末を活用し、ペーパーレスで実施することとした。
- ・県が派遣した民間のアドバイザーによる校内研修を実施し、職員室や資料室、机周りなどの環境整備を行った。
- ・夜間のバス停見守り活動や畑作り、草むしりなどにおいて、PTAや地域の皆さんからの協力を得た。

など

4 多忙化改善に向けた教職員の意識の変化

○約95%の学校において半数以上の教職員に意識の変化が見られる。このうち、8割以上の職員に意識の変化が見られる学校は全体の約60%である。

- ・担当業務について、出来るところから効率化を図ろうとしている (87.6%)
- ・周囲に対して必要以上に気を遣うことなく早く帰れる日は帰ろうとしている (84.7%)
- ・土曜、日曜、祝日は出来るだけしっかり休もうとしている (64.9%)